

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	町民運営による新たな活力生活圏形成事業
対象地域	鹿児島県霧島市福山町
活動概要	<p>霧島市は、平成17年11月7日、1市6町が合併し、人口約13万人、霧島山系の山間部から錦江湾の沿岸部までの面積約603km²市土を持つ、県内第2位の人口・面積を有する都市となった。</p> <p>しかし、新市内の中で、特に山間部等の旧3町(牧園町、霧島町、福山町)では、平成37年には約30%の人口減少、40%を超える高齢化率が見込まれ、山林の間伐や竹林の伐採の担い手がない現状において、将来の山林の荒廃がいずれの町でも深刻な問題となっている。</p> <p>一方、福山町では、地域への誇りと思いを持つ人々が集まり、地域を愛する心を育て、いつまでもより良い町を継承することを目的に、まちづくり団体(ふっぎやまぼっけもん会)を立ち上げ、郷土を代表する桜島と鹿児島湾(錦江湾)を望む約3haの山腹に花文字(“ふくやま”)を実現し、地元の高校生や特殊学校の生徒との共同作業による花文字の維持・管理を行いながら、郷土への愛着育成、担い手づくり、環境保全の取り組みを20年間続けてきた。</p> <p>そのため、本モデル事業により、ふっぎやまぼっけもん会の取り組みを担い手不足による山林荒廃が進む町の課題解消に結びつけ、旧福山町全体の自立的な取り組みとしての枠組みを実現し、霧島市内で同様の課題を抱える他地域の自立的取り組みモデルとする。</p> <p>本事業では、「1)伐採・間伐材利活用検討調査」を行うとともに、これまで続けてきた花文字の維持・管理のノウハウを活かし、学生等と共同して「2)荒廃が進む山林の伐採・間伐材利活用事業」を行い、次年度以降の自立的な取り組みを目指す。</p>
今年度の主な取組	<p>①「伐採材・間伐材利活用検討調査」を実施し、生活分野や農水産業分野等への伐採・間伐材の利活用の可能性について、協議会で検討、協議し整理する。</p> <p>②「荒廃が進む山林の伐採材・間伐材利活用事業」を実施し、地元の中学生や高校生、特殊学校の生徒の参加による伐採材に加え、町内で荒廃が進む山林の間伐材、伐採材の収集を行う。</p> <p>③「伐採・間伐材利活用検討調査」を踏まえ、収集した間伐材や伐採材について、木炭化、チップ化、敷き藁化、畜産資材等利活用材としての製作作業を行い、販売実験によりマーケットニーズの把握、販路の可能性や販売額の検証を行う。</p> <p>④「伐採材・間伐材利活用検討調査」及び「荒廃が進む山林の伐採材・間伐材利活用事業」の成果を踏まえ、次年度に取り組みする事業計画を検討し、事業計画(案)としてとりまとめる。</p>
活動結果	<p><u>(飼料としての利活用材の利用効果の把握)</u> 伐採材の粉碎材と土着菌の混合飼料による、牛への試食(10月より)を行った結果、牛舎における臭いの低減効果が確認でき、畜産面での伐採材等の利活用効果について確証が得られた。</p> <p>(利活用材制作に関わるノウハウの習得、取り組みにおける役割分担の明確化) 協議会において、畜産や農業等の専門家も交えた協議を行い、地域の現状等を踏まえ、伐採・間伐材の肥料、飼料、敷き藁等農業・畜産面での利活用の方向を定め、伐採材の収集、粉碎化から製作の一連の作業を行った結果、効率的な製作方法に関するノウハウの習得とともに、町民との連携を検討する上での役割分担が明確となった。</p> <p><u>(町民間での取り組み機運の向上とコミュニケーションの促進)</u> 伐採材の収集や粉碎化作業には多くの地域住民が参加し、取り組みへの理解が深まるとともに、間伐作業を実施した山林所有者からも感謝されるなど、町民内での取り組みの機運が高まった。</p> <p>また、利活用事業を具体的に実施するにあたり、市や畜産、農業等の専門家だけでなく、町内の企業や事業所と積極的に相談した結果、様々な業種とのコミュニケーション、利活用材製作のための原料提供等の連携が促進され、協議会活動を中心に、市、町民、町内事業者全体の連携の可能性が想定よりも高まった。</p>

活動結果	<p>(町民と連携した利活用材の活用、展開見通しの整理)</p> <p>福山町のシンボルである花文字の維持・管理活動の中で、これまで廃棄していた伐採材も利活用できることが確認され、地域活性化策としての取り組みの具体性が想定よりも拡大した。</p> <p>また、協議会において、園芸用肥料としての活用、町内の子ども会や学校関係者との勉強会を通じた町民とのタイアップ展開、小学校をはじめとする教育の場との連携による展開等、町内で連携した取り組みへと拡大展開する可能性が確認できた。</p>
当初予想していなかった効果	<p>伐採材・間伐材の利活用について、細かく粉砕することにより利用範囲が広がり色々なことが考えられた。当初は牛の既成の寝床や飼料及び堆肥づくりを考えていたが、地元の特産品である黒酢の粕や土着菌の利用などで効率よく発酵をさせて熟成を促したり、牛の食いを良くしたりすることが出来た。</p> <p>伐採材・間伐材等で堆肥を作り、利用方法を地域の学校、公民館、子供会に呼びかけたところ、6校の先生や公民館関係者そして子供会の若い母親の出席があったことが想定外だった。町内では花いっぱい運動があり、コンクールも開催されているので興味があったのではないかと考えている。今回出来た堆肥を使って結果がよければ、今後も協働しながら活動を続けていきたいと思っている。</p> <p>民間レベルの活動のなかで、市の職員や市長、副市長と度々活動内容、進行状況等話し合える機会に恵まれたことは、行政と民間の溝を瞬く間に埋めてしまった気持ちで、最高の喜びを感じた。</p> <p>今後、若い町おこしグループが、ハード面の活動に挑戦していける条件は常に頭に画いていて欲しい。簡単に引き受け簡単に手を引く活動が多い中、十分にグループや組織を整えてから引き受けたほうが良い。受けてから整えることは大変に無理が生じる。</p> <p>福山町のシンボルである花文字のように、牛が喜ぶ顔のその先に、町民の笑顔の花を咲かせたい。それが薩摩のぼっけもんの挑戦である。</p>
実施状況(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">【写真】協議会メンバーによる伐採材の収集及び伐採仮実験の様子</p>
応募団体名	福山町地域活性化協議会
リンク	-
部局/担当者名	会長 高橋 堯志
連絡先	0995-56-2881
推薦市町村名	鹿児島県霧島市